



アールモノラボ  
R-MONO Lab

ローランド株式会社 公認モノづくり同好会

2014年創部。電子楽器メーカーの大手、ローランド株式会社(本社:北区細江町)の社内同好会。現在、部員は18人。左から、カホンをもつ部長の山本さん、超小型コンピューターでシンセサイザーを作る“シンセ仙人”さん、箏ギターを作った“ねや楽器”さん、DJコントローラーなどを自作する副部長の岡村さん。

遊びだけど、仕事にも生かされている、たぶん。

「ジャン、ジャン、ギュウイーン」とか言っちゃって。教室の後ろでホウキを抱えてエアギターする男子。その夢を実現した「箏ギター」は、ホウキの穂をピックで弾くと本物のエレキギターサウンドが奏でられる。ほかに、段ボールでできた打楽器カホンや、誰が歌っても音痴になる音痴エフェクト「けものエフェクター」など。仕事でもなければ、誰かに頼まれたわけでもないのに、本気の大人数パワー(技術力と資金力)でギャグのようなヘンテコ楽器をつくってしまう人たちがいる。

「会社の工作室を私的に使いたい」「アールモノラボ」は、社員が自由にアイデアを出し合えるローランド特有の社風が生み出した会社公認のモノづくり同好会だ。

電子工作や木工細工、手芸など何でもあり。「それぞれ作りたいものを作ろう。必要な道具ややり方は、お



リコーダーでつくったパイオルガン「RP-103」(右)。Maker Faire Tokyoで発表した。透明なリコーダーを使いLEDで光らせた「RP-09」(左)は、浜松市楽器博物館にも納品した。



心臓のリズムに合わせて、目の周りのハートマークが光る「イロメガネ」。鴨江アートセンターでのイベントにて。



振動モーターを内蔵して動き回る「自走式たわし」。作った理由は「カワイイと思ったから」。

浜松市  
未登録  
文化財

「知る人ぞ知る」名所や旧跡、文化遺産、人、もの、風景など、後世に伝えたい「浜松の隠れ自慢」を紹介します。読者からの推薦募集中!

- 一、市民に古くから愛され続けていること
- 二、後世に伝え残したいこと
- 三、浜松らしいこと

浜松市未登録文化財 認定基準

右記の条文の内容を満たす人・もの・ことを浜松市未登録文化財として勝手に認定する



時折、お店番をしている由起子さんは、ご主人のお姉さん。定位置に座り、本を読むのがお決まり。



今でも、昔ながらのはかりで豆の分量を量り、袋に詰めてくれる。



トミヤコーヒー店(中区紺屋町)  
<http://www8.plala.or.jp/coffeemachine/>

車の往来が絶えない、紺屋町の交差点。昔懐かしいトタン製の外観に掲げられた「トミヤコーヒー店」の看板と、入口の「小売りいたします」の文字が目に入る。喫茶店?でもなさそう。営業中?などと思ったりして、初めて入るにはちょっと勇気がいる。

店の始まりは昭和11年。まだ浜松にコーヒー豆を販売する店がなかった時代。今のご主人、堀江和雄さんのお父さんが、自家焙煎の店として、商いを始めたという。

店には「1963年製」と刻印さ

れた焙煎機がある。蒸気機関車みたいな風格で、店の半分のスペースを陣取る。温めた釜に生豆を入れてしばらくすると、「ポツポツ」という音がやがて「ピチピチ」へ。堀井さんは、その音に耳を澄ませ、釜からテストスプーンを引き出した。豆の香り、色つやで、あとどれくらい熱を加えるかを見極める。

「今は、チェーン店でもコンビニでもコーヒーを売ってるけど、たまには自分で豆を挽いて丁寧に淹れる時間も必要じゃないかな」と堀江さんはやさしい笑顔を見せた。

機関車  
みたいな  
風格で。